

佐藤 玄々(朝山)

1888(明治21)–1963(昭和38)

山兔

佐藤玄々は仏像や寺社装飾に代表される日本の伝統木彫に、ロダンやブールデルによる西洋近代の造形思考を取り入れて、独自の表現を生み出しました。

本作品は、背中の丸み、黒いガラスをはめ込んだ丸い目と愛らしい爪が印象的な作品です。1951年の伊勢神宮の遷宮に際して制作されたもので、次第に装飾性を帯びていく作風の過渡期にあたる作品と言えるでしょう。